

パラグアイ経済トピックス（2023 年 9 月）

1 パラグアイ・パラナ水路における垂の通航料徴収問題

（１）９月７日、パラグアイ外務省は、パラグアイ・パラナ水路におけるアルゼンチン海上保安庁による燃料を積載したパラグアイ船舶１０隻の拘留に対し、ラミレス外相がアルゼンチン大使に抗議した旨のプレスリリースを発出。ラミレス外相は、この事態に対するパラグアイ政府の不快感を表明し、パラグアイ・パラナ水路における通航料の徴収が明らかに国際協定に違反していると述べるとともに、この状況を覆すために必要なあらゆる措置を講じると主張。

（２）９月８日、ペニャ大統領は、大統領公邸で開催された経済閣僚会議の第１回会合の後、パラグアイはパラグアイ・パラナ水路におけるアルゼンチンの一方的な通航料徴収を拒否し、同問題に関する仲裁を要請すると発表した。また同大統領は、アルゼンチンはパラグアイに対し、ヤシレタダムで発電されパラグアイから垂に売却されているエネルギー料金のうち少なくとも１億５千万ドルの支払いを数ヶ月にわたって行っていないと述べ、国益を守るための措置として、ヤシレタ二国間公団からのエネルギー引き揚げ（現在アルゼンチンに一部輸出しているヤシレタ水力発電所で発電されるパラグアイ分の電力の対アルゼンチン輸出の停止又は削減を意味する。）を大幅に増やすよう国家電力公社（ANDE）に指示したと述べた。加えて同大統領は、アルゼンチンが深刻な経済問題を抱えていることは理解しているが、パラグアイはアルゼンチンを利するいかなる多国間組織の決定も承認しないと述べた。

（３）９月１１日、ラミレス外相とセントウリオン公共事業通信相は、パラグアイを訪問したアルゼンチンのロヨン・エネルギー長官、ベニ港湾局長、デ・ビド・ヤシレタ二国間公団アルゼンチン側総裁、ペレス経済省顧問と会談した。同会談では、特にパラグアイ・パラナ水路とヤシレタ二国間公団に関する問題が取り上げられた。

2 パラグアイ、良好な経済情勢でラ米諸国をリード

９月８日、経済財政省は、国内外におけるパラグアイの経済情勢を示す月例財政状況報告書を発表し、その中で、パラグアイがラ米諸国の中でもトップクラスの経済指標を示していることを強調した。当該報告書の経済環境指標（Indicador de clima economico）によると、パラグアイは172.7ポイントで域内のブラジル、ウルグアイ、チリ、メキシコ他の国々を上回りトップに位置しており、ブラジルの121.4ポイントがこれに続いている。

3 今年の経済活動が6.5%の拡大を記録

９月にパラグアイ中央銀行が発表した今年１月から７月までの月次経済活動指標は6.5%の成長を記録した。中でも農業、サービス業、発電、畜産業、建設業が好調であった。農業部門では、大豆、米、キャッサバ、サトウキビの生産が増加した。サービス業では、政府サービス、企業サービス、外食産業・ホテル、商業、家事サービス、金融仲介、運輸が前年比プラスとなった。また、パラナ川の流量が前年より改善したことに伴い、イタイプダム及びヤシレタダムにおける発電量は前年比増加を続けている。

4 中銀、8月の輸出22%増と発表

(1) 9月12日にパラグアイ中央銀行が発表した対外貿易報告書によると、パラグアイの輸出は増加傾向にあり、8月も前年同月比で大幅に増加した。

(2) 中銀発表の統計によると、8月の輸出額は15億2,700万米ドルで、昨年同月の水準(12億5,000万米ドル)を22%強上回った。

(3) 輸出の増加は主に大豆、米、大豆粉の増によるもので、それぞれ132%、53%、9%の増加を記録した。一方、輸出量が減少した主な品目は、トウモロコシ、大豆油、食肉である。当該製品の主な輸出先市場はアルゼンチン、ブラジル、チリとなっている。

5 国内での電気モビリティ推進プログラム

(1) 9月15日、メンデス商工省副大臣は、ラテンアメリカ開発銀行(CAF)の代表者と会談し、2億3,000万米ドルの融資を通じたパラグアイ国内における電気モビリティの普及に向けての様々なプログラムについて話し合った。

(2) 同会談では、CAFの電気モビリティへの協力、電気バス導入に向けた資金供与、電気軽自動車、国内各地での急速充電システムの調達と設置などが議論された。パラグアイ政府は、2023年までに公共交通機関と国の公用車の10%から20%を電気エネルギーで動かすことを目標にしている。